

## 「Laminar-Z9 で戦う」 今を時めく、「和田典久」というトップレーサー

第一印象は、朴とつ・無愛想・寡黙、、、しかし彼を知れば知る程、その年齢に不相応なほどの純粹さと謙虚さ、額面通りのものの捉え方と発言に、真の誠実さと正直さを見出し、男性も女性も魅了してしまう、不思議な魅力を持ったレーサーである。レースの強さから、もっとキラキラとした食欲さが全面に出ている男性かと想像していたが、至って穏やかで、むしろほんわかとした安らぎさえ感じさせる人柄とレース中の的確で素早い判断力とのギャップに、あらためて驚きを感じる。

アドレナリンに頼らずに戦う、確固たる実力を持つレーサーなのだ。

2009年8月、フランスのララーニャで初めて参戦した世界選手権での健闘ぶりは記憶に新しいだけでなく、「和田典久」の名前を、日本のみならず世界中に印象づけた。

そして2010年が幕を開け、前日まで尾を引いていた股関節の傷みはどこ吹く風で、開幕戦「西富士ジャパンクラシック」初日でのトップゴール！（「飛ぶこと」が彼の特効薬なのか。）2日目はトップゴールの鈴木博司と僅か3分差で2位。総合準優勝を獲得。

その前後の龍門山月例会（メジャー競技会と遜色の無い難易度の高いパイロンレース）でも、参戦した日は全てトップという真の実力者である。



## 世界の和田っちロングインタビュー

Q: まず、今回の「西富士ジャパクラシック」での勝算及び、感想を聞かせて下さい。

A: 「勝算」

悪くても 6 位以内には入れると思いました。それと、コンディションが良くタスク距離が長くなればなるほど自分には有利になると思っていました。

「感想」

一年ぶりの国内のレースで、予想以上にコンディションが良くハイペースなフライトになると思いました。タスク 1 でトップを取った時には、嬉しいよりもホットしましたね。1 年のブランクはほとんどないと。

タスク 3 では、後半になると先頭集団から抜け出し板さんと二人で飛ぶことになりましたが、タイミングが早すぎ二人ともゴール出来ませんでした。まだ自分にはスピードに余裕がある事が確認できてよかったと思いました。

Q: 2009 年フランスでの世界選手権初出場の感想と、そこから見えてきた今後の「自分自身の課題」と「日本チーム」としての課題を聞かせて下さい。

A: 「自分自身の課題」

世界選や国際大会では、スタートが大事だと思いました。スタートを失敗すれば、日本国内の大会に比ベスピードが非常に速いため、遅れを取り戻す事が難しいからです。

あとは、できるだけ落ち着いて飛ぶこと。熱くなりすぎない、焦らない。調子に乗り過ぎない？

「日本チームとしての課題」

- ・海外でのフライトを積み重ねる事。
- ・長時間のフライトに慣れること。
- ・スピードに強くなること。
- ・海外のトップとコミュニケーションがとれること

Q: その世界選でデイリー 6 位になった際、その日はマンフレッドに勝ったわけですが、この結果が続けば、総合で勝てる可能性も高くなるわけですね。その可能性についてどのようにお考えですか？

A: 勝てる可能性はあると思います。が、彼に勝つためには同じ舞台に立ち、色々と学びながら三年ぐらいは修行をしないと、今の自分ではなかなか勝てる相手ではないですね。

Q: 将来、ご自身は世界選手権でどのくらいの順位まで上り詰められると思いますか？

優勝する可能性はあると思いますか？また、日本チームがチーム優勝するためには、どのような体制になる必要があると思いますか？

A: 毎回、世界選に出られるのなら、10 位以内は十分可能性はあると思いますが、優勝となれば、海外に移り住み片っ端から大会に明け暮れ、経験値を積み重ねなければならないと思います。マンフレッドとは違い、あとは運任せ！

日本チームがチーム優勝するには、海外経験豊富でスピードに強く、風を読み自ら先頭を走れる

選手。などなど、他にもたくさんあるとは思いますが、こういった選手を育てる事が出来たら優勝も夢ではないかと。



2009年世界選手権チャンピオン、やはり Z9 で戦う  
アレックス・プロナー氏 (ICARO2000 契約パイロット)

**Q:** 無線を使ったチームフライトについての考えを教えてください。

**A:** 無線機を使ったチームフライトは、情報を出し合い、助け合い、全員が良いフライトができ、チームの順位も良くなりますが、正直あまり無線機は使いたくありません。なぜなら、情報を与えられると考える事もなく、ただ飛ぶだけになりそうだからです。基本的に世界選は個人競技なので、自分で考え判断・決断して行くところが一番面白いからです。  
また別に団体競技があれば、それはそれで楽しいかな？

**Q:** 極数年前までは、「実力者だけれど、目立たない選手」だったという印象があるのですが、いつの時期から、また何をきっかけに文字通り「頭角を現して」来られたのですか？大会でコンスタントに上位に入り始めた時期・自分自身に「結構行けるな。」と自信を感じたそのきっかけを教えてください。

**A:** 5~6年間のブランクの後、5年ほど前から大会復帰しました。その次の年には二大会出場し、二大会とも2位という成績を収めることが出来時から、「これは行けるかな」と思い始めました。

**Q:** トップパイロットにはどのような精神的資質が重要だと思いますか？

**A:** 自分を信じること。

**Q:** トップレーサーの人間性や性格は競技の結果と重大な関係性があると思いますか？あると思う場合、どのような性格のレーサーがトップをとりやすく、またそうではないレーサーはどのような努力をすればトップに近づくことができると思いますか？

あなたは大変控えめな方で、最初は人見知り？あまり外交的でない方だと感じていましたが、いろいろと話しをする中、大変強い意志と芯の通ったポリシーをお持ちであることを認識しました。あなた自身のハング競技における精神的な資質について話して下さい。

**A:** ん～！ どうなんですかね？ 競技における精神的資質なんて考えた事がないのでよくわかりませ～ん。



結構、おちゃめ？



食事の時は子供の様なこの笑顔

**Q:** 尊敬しているまたは、「こいつはすごい！」と思うフライヤー数名とその理由を挙げて下さい。

**A:** やっぱりマンフレッドかな。他のパイロットには惑わされず、独自のコースを飛びトップをさらっていくところ。

日本人では、大門さん、鈴木博司さん。

大門さんは、皆のお手本となるフライヤー。

鈴木さんは、大会に出始めた頃、自分が有利なはずのグライドでまったく追いつけなかった人。グライド技術のお手本になりました。

**Q:** 兵庫県岩屋というエリアで、ただ一人ハングでフライトしていた時期が長かったと伺っています。一人で飛ぶ際、どんな課題を決めて飛んでいたのですか？また、自分で課題を作る意欲・モチベーションまたは強さはどこから湧いてくるのですか？

**A:** 岩屋エリアは、あまり日本にはない山岳エリアだと思います。周りが山で囲まれているので、風が複雑で読み間違えると帰ってこれないという事も。

フライトはほとんど平日で、人の少ない日ばかり。と、何十キロと出て行ったとしても帰ってこなければ大変な目に。何としてでも帰ってくるという事が自然に課題をもって飛ぶことが出来たと思います。





2009年フランス世界選手権練習日、初めて自機 Z9 - 14.1 で飛ぶ。

Q：現在までの、総合フライト時間と本数を教えてください。

また、ここ数年の年間フライト時間を教えてください。

A：フライト時間 1000 時間ぐらい???  
1000 本数???

Q：他の選手から「和田さんとはとにかく速い。」という感想を聞くことが多いのですが、その速さを以下  
①「揚げが速い。」②「判断（決断）が速い。」③「グライドが速い。」に分析すると、①は技術、③は  
機体性能・翼面荷重とペネトレーションのアドバンテージ・機体を微動だにさせないグライド技術と  
いうことだと思いますが、②の「判断の速さ」は大局的には「気象」を、局部的には「場の風」を読  
む能力に長けている、ということなのでしょうか？

その（速く飛ぶ）秘訣を教えてください。

A：自分自身、揚げが速いなんては思っていません。まあ、普通+ぐらいだと思います。

機体性能がいいからという人もいますが、確かに有利ですが岩屋で毎回のように効率よく早く飛べるように練習していました。そうすることで、風の流れなどから最小のロスで飛べるかを読めるようになったと思います。

Q：そうだとしたら、気象の知識、場の風を読む能力を鍛えるには、どのような努力が必要ですか？（気象学を勉強する。観天望気・観察眼を鍛えるなどなど。）

A：特に観察力が重要だと思います。ちょっとした雲の変化や、雲のサイクル、流れる方向、鳥、他のグライダー、煙の動きなど。

Q：特に和田さんが長けている能力「グライド技術」（ピッチコントロール・スピードコントロール・コース選択・その他）の秘訣を是非知りたいです。

また、グライド中は何を考えながら飛んでいますか？

## A: グライドの秘訣

レースもフリーフライトでも、地面から雲の高さの中間を基本にして、コンディションの強弱によって到達最低高度を決め出来るだけスピードを出しますが、コース近辺にリフトを見つけた場合はスピードを緩めたりして、高い位置につけるよう調整します。コントロールは、出来るだけ力を抜いて最少の動きで行い、風の抵抗が増えないようにハーネスの角度にもきおつけています。

グライド中に考えていることは？

まあ、いろいろと…。

Q: 普段、フィジカル及びメンタルのトレーニングをしていますか？されているとしたら、その内容を教えてください。

A: **フィジカル面**

ジョギング

**メンタル面**

まったくしてません！

Q: これからの人生の「目標」または「夢」を教えてください。

A: 本当の風使いになる事!!

インタビューを終えて

今回のインタビューは締切が迫られていた為、メールでのやりとりとなりましたが、何の気負いも銜いも無い自然体の回答に、改めて人間的な魅力を感じました。仕事のあとのお疲れの所、遅くまでかかってお答え頂き、本当に有難うございました。



# 緊急速報

## 和田っちの「勝ち癖つき愛機 29-14.1」を販売致します。

※ 戦歴は以下の通り実証済。

2009年 ハング世界選手権 総合42位 (タスク7: デイリー6位)

2010年 西富士ジャパクラシック 準優勝 (タスク1 トップ)

2009年 12月～2010年2月 龍門山月例会全3回 トップ

○オプション: MRA フレーム

60LSP マイラーセール

カーボンバテン

カーボンインサート

○カラー: 上記写真参照

○フライト本数: 40本 (2010年2月6日現在)

○価格: 1,100,000円

○納期: 日本選手権後の納品となります。